



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 高橋伸二
編集者 近藤信博
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2007.7.10
第1387号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを 皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。 加入ってます」

交渉経緯・確認事項の再認識を

「設備メンテから6年」学習会開催

六月三〇日、地方本部は「設備のメンテナンス学習会」を国労会館会議室で開催した。工務・電気職協及び同関係分会代表者二六人が参加した。学習会は、合理化が施行され六年を経過した今日、直外区分の不明確さ、技術力継承の課題、運転事故の多発で問われる「安全・安定輸送」の確立に向け、交渉経緯と整理点について、学習し意思統一を図り、安全・安定輸送、安心して働ける条件を作り出して行くことを目的に開かれた。当日は、工務・電気職協毎の問題点の整理が中心、時間の関係上すべて整理できず、後日職協毎に問題点を地方本部にあげ、団体交渉などで改善を図っていくことを確認した。

職場改善に向けた 課題の集約を進める

委員が、高橋委員長から地方本部を代表した挨拶を受け



問題点の意見交換をする工務職場の代表者

委員が「設備メンテナンス交渉の経過について」と題し講演。「六年目を迎え、労使双方の認識が薄くなってきた。検査・保守業務の縮減の中で労働条件が悪化するのではない」として、実態は？、パートナー会社の夜間作業の偏りは？、軌道検測車による「当たり」を出さないためのJR直轄作業の実態など、会社回答と実態の検証が必要。一方で、パートナー会社が本来やるべき業務をJRの計画的作業に組み入れようとしたのを現場・地方本部連携で変更。こうした取り組みを大事にし、交渉経緯・確認事項について再認識する中で職場改善に結びつけよう」と、交渉経緯・確認事項再認識の重要性を訴えた。

その後、小林書記長が、職場改善要求作りの視点として「交渉整理にあたり『施策の定着・実態と現状との乖離、

当面の主な日程

- ▽7月12日 参議院議員選挙公示
- ▽7月14日 新たな再雇用制度学習会
- ▽7月28・29日 地本組織・教宣部長会議

を見れば、下請け会社への安全指導も必要」とし、電気協議会は「新幹線の盛岡以北開業から五年経つが、メンテ交渉以降の開業のため、技セ・メセの業務分担を含め『確認事項』に基づいた整理を改めて行う必要がある。パートナー会社との境界作業について曖昧さがあり、パートナー会社の業務内容を明確にさせるべき。同時に、パートナー会社の技術力についても課題がある」と報告があった。

最後に、「労働条件改善に向け『確認事項』の活用を図る中で職場実態の乖離状況の点検・摘発を取り組み、組合員の率直な声をもとに健康で働き続けられる職場改善に向けた課題の集約を進める」と小林書記長のまとめを全体で確認し、学習会を終了した。

「設備メンテナンスの再構築」から六年目を迎え、課題・問題点が出てきている。交渉経緯と確認事項を意思統一し、「安全・安定輸送」の確

JR不採用事件の意見書採択

岩手県議会・7月4日

七月四日、岩手県議会で「JR不採用事件の早期解決を求める意見書」が賛成多数で採択された。宛先は、内閣総理大臣、国土交通大臣、厚生労働大臣となっている。地方本部は、統一地方選挙で岩手県議会議員に当選した

地本議員団の所属委員会

- 先統一地方選挙で組織内候補四人が当選、地方議員団は八人となっている。
- 各議員の所属委員会は次のとおり。
- ◎星敦子北上市議会議員 (経済環境委員会)
- ◎三浦啓一北上市議会議員 (建設委員会)
- ◎山崎道夫矢巾町議会議員 (教育民生委員会)
- ◎奈良岡勝也青森県議会議員 (商工労働エネルギー委員会)
- ◎斎藤憲雄青森市議会議員 (民生環境委員会)

立と安心して働き続けられる条件作りをめざし、引き続き、職場から「二職場一改善要求、一人一改善要求」仕事総点検運動」を強化しよう。

6.16青森集会

再処理工場稼働 阻止訴え720人



720人がデモ行進 県民に訴えた

初夏の強い日差しのもと、6・16六ヶ所再処理工場稼働阻止全国集会」が、全国各地から七二〇人の結集のもと、青森市の青い森公園で開催された。国労組合員も、青森支部

の協力が得られ共同提出し、七月四日に久保議員が趣旨説明に立ち、採択(賛成多数)となった。

久保議員は趣旨説明の中で、「九年前にも本会議で、国への責任による早期解決を求める採択を行っているが、現在も解決に至っていない。一人も路頭に迷わせないという約束は守られず一〇四七名が放置されている。今日現在、一八道府県議会を含め全国の一〇六二議会で政府への早期解決を求める決議を採択してい

る。また、世界一八〇カ国が参加するILOの解決に向けた勧告は七回。昨年一月七回目の勧告は、解決すべきと求めている。東京、福島などの議会で全会一致で採択されている。人道的立場、国策から生まれた問題であり、早期の解決を求め全会一致の採択をお願いしたい」と訴えた。

同議会では、一九九八年七月六日にも同様の意見書が社民党などの尽力で採択されており、今回二度目となる。

を中心三五人が参加、「核燃サイクル施設稼働反対」「アクティブ試験再開阻止」の全国からの声に加わった。集会では、青森県反核実行委員会の渡辺秀彦委員長が主催者を代表して挨拶。その後、全国各地の参加者から「六ヶ所核燃サイクル施設」に対し多くの安全性・必要性への疑問の声があげられ、政府・県・原燃の「アクティブ試験の延期」や「耐震計算ミス隠し」問題での姿勢は容認できないものではなく、六ヶ所サイクル施設の廃止以外に国民の命は守れないことが明らかにした。

現在候補地を募っている「高レベル廃棄物最終処分地」がそのまま決定できなければ、青森県に押し付けられることも十分に予想され、今秋以降も、予断を許さない状況が考えられる。私たちも全国の仲間とともに、よりいっそう取り組みを強化していかなければならない。

集会後は繁華街の新町通りをデモ行進、六ヶ所サイクル施設の危険性を市民にアピールして、稼働阻止への理解と協力を求めた。「岩手からも平和环境労働センターがバスをチャーターし参加。国労盛岡支部からも三人が参加した」

ていこう

七月に入り、空梅雨模様が一転して毎日が雨模様となり気温の低い日もあり早く梅雨が明けてほしいと思う。お互い食中毒、体調には注意して業務を進めていきたい。梅雨を吹き飛ばすように六月三〇日(二十八歳)、七月一日(二十六歳)に東京で二〇代の青年が国労に加入した。一括和解以降一七人の組織拡大である。五月一日には二〇歳の平成採用者も加入している。今回の加入者は運転職から。組織拡大は私たちがとって重要課題。国労運動の前進・発展のため組織拡大の運動を強めなければ。七月五日、一六六回通常国会が閉幕した。今国会では、政府・与党による異常とも言える強硬な国会運営があったように思える。社会保険庁改革関連・年金時効停止特別措置法案、公務員制度改革関連法案等を強行採決した。六月から「恒久的減税」であった所得税・住民税の定率減税廃止によって税負担が「増すことになった。一方で法人税率引き下げは変わらず企業優遇となっている。また、先の大戦での原爆投下は「しようがない」と発言した久間章生防衛相が三日に辞任した。このような発言は被爆国の関係として絶対に許されるものではない。▼第二回参議院選挙が七月二二日公示、二九日投票票で行われる。春の統一地方選挙では国労の組織内候補者、推薦候補者の勝利を勝ち取ることができた。今回の参議院選挙では岩手選挙区、青森選挙区に推薦候補者、比例区でも推薦候補者を擁立して戦うことになった。労働者を取り巻く情勢は厳しくなっている。参議院選では勤労国民の怒りの声をだし推薦候補者の勝利に向かって戦ってほしい(岩手

